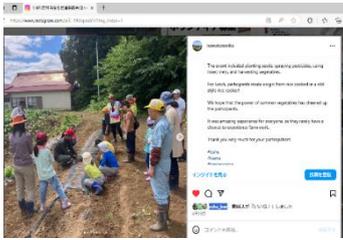


令和7年度東北農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」選定地区取組概要

| ビジネス・イノベーション部門 | | | | |
|----------------|------|-----|----------------------|--|
| No. | 都道府県 | 市町村 | 地区名 | 取組の概要 |
| 1 | 青森県 | 藤崎町 | ふじさき食彩テラス |  <p>商品開発され、直売所の集客に大きく貢献したりんごあめ</p> <p>農産物直売所への集客を目的に、「ふじ」りんご発祥の地である藤崎町のブランドをいかし「ふじさきまちのりんごあめ」を商品化。SNSでのPR、イベント販売等に取り組み、来店者数は大幅増加。さらに、規格外野菜の活用イベント開催等で食育と地域交流を強化。取組の結果、売上は大幅に増加し、農業者の所得向上と地域活性化に寄与している。</p> |
| 2 | 岩手県 | 奥州市 | いさわ農村活性化推進協議会 |  <p>親子農業体験の様子を英訳付きInstagramで発信</p> <p>地元若手農家と高校生ボランティア、地域おこし協力隊員が中心となって古民家を再生し、活動拠点として整備。担い手確保を目的とした農業体験・研修事業、インバウンド向けバスツアー(胆沢平野の農業文化の史跡等を回るツアー)等を企画実施し、大好評を得ている。令和4年からはSNSでの情報発信にも積極的に取組み、英訳付きで98回投稿し、フォロワー数が501人まで増大している。</p> |
| 3 | 福島県 | 福島市 | 福島ユナイテッドFC農業部 |  <p>農業部に所属するプロサッカー選手達</p> <p>震災後の風評被害払拭を目的に農業部を設立。選手が地元農家とともに桃、アスパラガス、ぶどう、米などを栽培。試合会場やECサイトで販売し、ファンとの交流を促進。農業体験イベントや食育活動も実施し、地域ブランド力を高めている。2024年は試合会場出店39回、EC販売1,010個を達成。</p> |
| 4 | 福島県 | 平田村 | 道の駅ひらた「日本一辛い村プロジェクト」 |  <p>イベントに参加したハバネロ生産者</p> <p>震災後、見た目の可愛さから風評被害を払拭できる可能性を考えた農家3軒がハバネロ栽培を開始。現在、農家16軒(面積50a)で収穫量10,000kgを目標に栽培している。また、46品目の関連商品を開発し、商標登録も6件取得。芸能事務所とのコラボやSNS発信で知名度を拡大。毎年開催する「ハバフェス」では地域住民を巻き込み、観光と食を融合したイベントを展開している。</p> |

コミュニティ・地産地消部門

| No. | 都道府県 | 市町村 | 地区名 | | 取組の概要 |
|-----|------|------|---------|--|---|
| 5 | 秋田県 | 東成瀬村 | 株式会社 風鈴 | |  <p>高年齢者が「働き続けること」で生きがいを得る環境を整えるため、平成25年に福祉農園を開設。野菜栽培、手植え・手刈りによる天日干し米の生産、稲わらやスゲを使った正月飾り作りなどを実施。生産した米を「冥土の土産米」として全国販売したところ即完売。近年は高齢者施設への横展開やふるさと納税の返礼品対応も開始。農福連携により認知症予防や健康寿命の延伸に寄与。</p> |

個人部門

| No. | 都道府県 | 市町村 | 地区名 | | 取組の概要 |
|-----|------|-----|-------|--|---|
| 6 | 秋田県 | 潟上市 | 菊地 晃生 | |  <p>都市部の消費者を対象に米、野菜の農業体験ができる仕組みづくりと活動拠点を整備。併せて伝統技術の再生・継承を目的とした漬物、菅笠(スゲガサ)の製造、販売を実施。さらに、都市と農村の多様な主体が関わることのできるコミュニティづくり(笹巻、味噌づくり等一年を通じた食品加工体験や地域の伝統行事の企画)にも取り組んでいる。</p> |